

兵庫県のゴミムシダマシ(2)

(兵庫県甲虫相資料・209)

高橋 壽郎*

7. *Gonocephalum coenosum* Kaszab, 1952

ヤマトスナゴミムシダマシ

Kaszab氏が記載された(Ent. Arb. Mus. G. Frey, 3: 643, 1952)。Marseul氏が*Opatrum japonum*とした種は(Ann. Soc. Ent. France 6: 96, 1876)本種のシノニムになる。

分布は日本の本州、四国、九州、トカラ列島、先島諸島、尖閣諸島と、外国では朝鮮半島、中国、台湾と広く産するようである。

兵庫県から従来記録がなかったようであるが瀬戸内海に面した海岸線には広くいるのではないだろうか。

産地：三原郡西淡町慶野松原(4 exs., 26-V-1983)、西宮市御前浜〔沢田, 1986〕、神戸市ポートアイランド(lex., 12-XI-1985)、布引(lex., 17-V-1959)、山の街(lex., 31-V-1959)。

8. *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky, 1857

コスナゴミムシダマシ

Motschulsky氏がJapanから記載された種である(Stud. Ent., 6: 34, 1857)。Kaszab氏は満州、支那、日本を記録(Ent. Arb. Mus. G. Frey, 3, 2: 458, 667-668 & 685, Figs. 499-503, 1952)。中根博士の図説(1949, 1963)、中條、安藤氏のもの(1985)とがある。

Marseul氏は“Japan: Kiu-Siu”として*Opatrum* (*Gonocephalum*)で記録している(1876)。Lewis氏は*Hopatum Coriaccum*として“Cat. Col. Japanese Archipel.: 18, 1879”に報じている。

Heyden氏は“Japan: Osaka & Kiushiu”を産地に*Opatrum* (*Gonocephalum*?)で記録(Deut. Ent. Zeit. 23, 2: 253)。

Harold氏は*Opatrum*属で“Japan”を記録(Abh. Nat. Ver. Bremen, 5: 130, 1876)。Reitter氏は*Gonocephalum* (*Gonocephalum*)属で“Japan, Mongolia, Sze-tschuan”を記録されている(Best.-Tab. europaischen Col., 53, 3: 142-143, 1904)。

分布も広く日本全土、朝鮮半島、中国(福建、北東部)

にいる。

兵庫県下でも普通に見られる種である。

産地：川西市見野笹部、大和〔仲田, 1978, 1982〕、伊丹市〔河上, 1984〕、西宮市御前浜〔沢田, 1986〕(5 exs., 9-IV-1987)、明石市明石公園(3 exs., 9-V-1978)、林崎(lex., 30-V-1983)、飾磨郡家島〔上田, 1981〕、出石郡出石町桐野〔高橋, 1963〕、豊岡市〔高橋, 1975〕、城崎郡日高町岩中〔高橋, 1975〕。

9. *Gonocephalum japonum* Motschulsky, 1860

スナゴミムシダマシ

Motschulsky氏がJapanより*Opatrum* (*Gonocephalum*)で記載された(I. C., p. 16, 1860)。

Marseul氏は“Kiu-Siu”を記録された(多しとある)(I. C., p. 96, 1976)。

Lewis氏は*Opatrum expansicolle*として“Kiga, Kobe, Arima and on Maiyasan”を産地に記録された(I. C., p. 380, 1894)。

古く湯淺啓温・河野広道両博士による図説(日本昆虫図鑑, p. 1146, f. 3288, 1950, 学名は表記の通り)があるが、中根博士の図説(1949, 1963)、中條、安藤両氏のもの(1985)もある。

分布は広く北海道、本州、四国、九州、八丈島、佐渡島、栗島が知られ国外では中国にも分布している。兵庫県下での個体数はそれ程多くないようである。

産地：川西市笹部〔仲田, 1982〕、Kobe, Arima and on Maiyasan〔Lewis, 1894〕。

10. *Gonocephalum persimile* (Lewis, 1894)

ヒメスナゴミムシダマシ

Lewis氏により*Opatrum*属で“Miyanoshita or Odawara”を産地に記載された種である(I. C., p. 381, 1894)。

中根博士の図説(1963)、中條、安藤氏の図説(1985)がともにある。

分布は日本全土、朝鮮、ウスリー、蒙古である。

県下では川原等の砂地に割合いるようである。

産地：三原郡慶野松原(2 exs., 26-V-1983)、西宮市鳴尾〔戸沢, 1936〕、神戸市摩耶山(lex., 27-V-

* 神戸市兵庫区水室町1丁目4

1953), 布引(lex.,17-V-1959), 加納町(lex.,6-XI-1984, lex.,9-XI-1984, lex.,13-X-1985). 鳥原(lex.,18-V-1952, lex.,12-V-1953, lex.,29-IV-1955, lex.,27-V-1971), 2 exs.,13-VI-1971, lex.,1-VIII-1971, lex.,29-IV-1955, lex.,27-V-1953, 2 exs.,13-VI-1971, lex.,1-VIII-1971, lex.,23-VII-1972, lex.,8-VII-1973, 16exs.,21-III-1974, 4 exs.,18-VIII-1974, lex.,6-X-1977, lex.,18-IV-1979, lex.,29-III-1982, lex.,25-V-1983, lex.,4-VI-1983, lex.,19-VI-1983, lex.,7-VII-1983), 須磨(2 exs.,17-VI-1980, Y.Hachiya leg.), 明石市江井ヶ島(5 exs.,20-IX-1975), 林崎(lex.,30-V-1983), 三木市美囊川々原(6 exs.,25-VI-1978), 加西市畑(lex.,28-VI-1974, 2 exs.,27-VII-1974), 姫路市白浜ノ宮(2 exs.,20-IX-1979), 大塩(5exs.,12-X-1982), 赤穂市坂越(lex.,18-I-1979), 天和(3 exs.,6-X-1974), 多紀郡篠山町上籠坊(仲田, 1982), 出石郡出石町中山〔高橋, 1963.〕。

11. *Gonocephalum pubens* Marseul, 1876

オオスナゴミムシダマシ

Marseul氏により *Opatrum*(*Gonocephalum*)属で“Japan, Hiogo”を産地に記載された(I.C., p.95, 97-98, 1876)。湯淺, 河野両博士(1950), 中根博士(1963)と中條・安藤両氏(1985)のそれぞれ図説がある。

本種も分布は本州, 九州, 四国, 西表島, 台湾, 朝鮮, 満州, 中国, インドと広い。

兵庫県でも海岸線ぞいには多くいるようである。

産地: 津名郡松帆ノ浦(2lexs.,21-IV-1983), 西宮市御前浜〔沢田, 1986〕, Hiogo〔Marseul, 1876〕, 明石市中八木屏風ヶ浜(19exs.,5-X-1982), 姫路市大塩(1xs.,12-X-1982)。

12. *Gonocephalum reticolle*(Motschulsky, 1866)

オオスナゴミムシダマシ

Motschulsky氏によって *Opatrum*属で記載された種である(Bull. Mosc.39:173, 1866)。Lewis氏は“Kobe, Sannohe, Shirakawa, Fujisan”を産地に記載された(I.C., 1894)。

中根博士(1963), 中條, 安藤氏(1985)のそれぞれ原色図説がある。

分布は北海道, 本州, 四国, 九州と外国で台湾, シベリアである。

兵庫県下でも割合見られるのではないだろうか。

産地: 津名郡松帆ノ浦(1 ex., 21-IV-1983), 三原郡慶野松原(5 exs., 26-V-1983), Kobe〔Lewis, 1894〕, 明石市林崎(9exs., 30-V-1983), 姫路市の形(6 exs.,

9-X-1979), 赤穂市天和(17exs., 6-X-1974)。

13. *Gonocephalum sexuale*(Marseul, 1876)

ホソスナゴミムシダマシ

Marseul氏が *Opatrum*(*Gonocephalum*)属の種として“Hiogo”産で記載された種である(I.C., p.96, 98-99, 1876)。

中根博士の図説(1963), 中條, 安藤両氏のもの(1985)とがある。

分布は日本全土, 朝鮮, シベリア, 中国とやや広い。兵庫県下での産地をほとんど知らない。よく調べなくてはいけないと思っている。

産地: 川西市笹部, 大和〔1978, 1982〕, Hiogo〔Marseul, 1876〕。

14. *Gonocephalum terminale* Redichardt, 1936

ヒメカクスナゴミムシダマシ

Redichardt氏により記載された種である(Tall. Anal. Fu. U.S.S.R. 19:97, 110, 1936)。

中根博士の図説(1963), 中條, 安藤氏のもの(1985)がある。

分布は日本の本州, 四国, 九州, 朝鮮, 東アジアである。

本種も兵庫県下での記録があまりない。再調査の必要がある種である。

産地: 川西市一庫〔仲田, 1978, 1982〕, 神戸市山の街(2 exs., 31-V-1939), 出石郡出石町中藤〔高橋, 1963〕。

15. *Caedius maderi* Kaszab, 1942

オオマルチビゴミムシダマシ

Kaszab氏が“Japan: Oita in Kyusyu”を産地に記載された種である(Mitteil. Münchner Ent. Ges. e.v., 32, 1:35-36, 1942)。後同氏は“Tokara Is. Takarajima”からも記録された(Ent. Rev. Japan 16巻2号, p.40, 1964)。中根博士は *Micrblyprops*属の種として図説された(1949)。その後 *C. maderi*の亜種 *minor*を“Tokara Is. Takarajima”から記載された(タカラマルチビゴミムシダマシ)(Fragm. Col., Pars. 6:26, 1963)。原色でも図説しておられる(1963)。他に中條, 安藤氏による原色図説もある(1985)。幼虫については林博士が図説しておられる(Ins. Mats., Suppl. 3:4-5, 1968)。

分布は日本の本州, 伊豆諸島, 四国, 九州とカンボジアである。

兵庫県下での記録がほとんど見られない。海浜性の種であり海岸線があれば多くいるのではないだろうか。

産地: 赤穂市天和(25 exs., 25-IX-1974)。

16. *Caedius marinus* Marseul, 1876

マルチビゴミムシダマシ

Marseul氏によって“Hiogo”を産地に記載された種である(I.C., p.95-97, 1876)。後中根博士によって図説された(1949, 1963)。中條, 安藤氏のものもある(1985)。

海浜性のようで分布は北海道, 本州, 四国, 九州となっている。

残念ながら筆者該当種を採集したことがない。

産地: Hiogo [Marseul, 1876]。

17. *Phelopatrum scaphoides* (Marseul, 1876)

オオマルスナゴミムシダマシ

Marseul氏により“Hiogo”を産地にHadrus属で記載された種である(I.C., p.96, 99-100, 1876)。

中根博士はPseudodrus属で図説され(1949, 後Phelopatrum属で原色図説をされた(1963)。中條, 安藤氏の図説もある(1985)。

分布は本州, 四国, 九州, 五島列島である。

海浜性で県下での記録はあるがその後知られていない。

産地: Hiogo [Marseul, 1876]。

18. *Micropedinus algae* Lewis, 1894

ホソハマベゴミムシダマシ

Lewis氏により新属Micropedinus設立と同時に新種M.algaeとして記載された種である。産地は“Kobe. Abundant under seaweeds on the sandy seacoast”となっている。

中根博士は原色で図説されているし(1963), 中條, 安藤氏のものもある(1985)。林博士は幼虫を図説しておられる(I.C., p.4-5, 1966)。

分布は本州, 四国, 九州, 琉球(トカラ宝島), 台湾である。

海浜性の種であり神戸からは古く記録はあるが現在の海岸線では余り良くその分布がわからない種である。

産地: 三原郡慶野松原(2 exs., 26-V-1983), Kobe [Lewis, 1894]。

19. *Micropedinus pallidipennis* Lewis, 1894

ヒメホソハマベゴミムシダマシ

Lewis氏が前種と同じく“Kobe. Associated with M.algae”として記載された種である(I.C., 1894)。中根博士の図説があり(1949, 1963), 中條, 安藤氏のものもある(1985)。林博士の幼虫の図説がある(I.C., p.4, 1966)。

新潟県から ab. limbatus, ab. fuscus Nakane et Baba, 1959が記載されている。

分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 来間島, 石垣島, 国外でインドシナ。

海浜性で前記種と同じような状況にある。

産地: 三原郡慶野松原(5 exs., 26-V-1983), Kobe [Lewis, 1894], 赤穂市天和(5 exs., 25-IX-1974)。

(MAY 1988)

(未完)